

2007年さくら道よれよれひとり旅

(2007年4月28日～4月30日)

山猫@よれよれ歩き人

はじめに

昨年は巨人軍団主催「それぞれのさくら道」に参加させて貰ったが、今年は新しいシステムに4月から切り替わったので、毎日の帰宅も遅くなり、GWに休日出勤の可能性もあり、どうしようか迷っているうちに月日が過ぎていた。さくら道を走りたいとの思いに変わらないが、何よりも身体に蓄積された疲労が溜まりに溜まった状態なので、走れるかの心配もあった。

ひとりさくら道に行く決心をしたのは6日前だった。もっとも行くか、行くまいか迷った末の決断だったが、走るとなれば気持ちは自然と高まる。スタートは前日泊の名古屋からではなく、最もロスが少なく、交通の便が良い岐阜駅前とした。ルネス金沢までの距離は225kmくらいである。これなら宿泊費もいらぬし、一番安上がりで走れるさくら道になるだろう。地図を作成する時間もないので、昨年使ったメモだらけの地図を使い、色の違うボールペンでメモしようと考えた。

数日前、H野さんに連絡すると「巨人軍団は13人くらい走られるのでルネスで会いましょう」とのこと。また、ゆのさんや香峰さん達数人の方は5月1日郡上八幡スタートで金沢を目指されるようだ。

前日は新しいシステムに切り替わってから初めての棚卸日だったため、会社の退社時間は23時、家に帰ったのは23時半だった。持って行く荷物の準備は予めしていたが、寝たのは2時前になっていた。

当日

睡眠不足が心配な中、当日は7時半頃に起きた。天気予報では雨の心配はなさそうだった。9時前に家を出て、岐阜には10時半に到着。本当は10時頃着を予定していたが、遅れてしまった。その辺り、時間に拘束されないひとり旅は気楽だ。

電車の車中から外の景色を眺めていると、濃い緑に淡い新緑と濃淡の緑の山々は目に優しく、気分良くしてくれる。田植えやしらかきの様子があちこちで見られ、その間の畦道に植えられた木のある風景が心地良く感じた。携帯サイトを見ると同じくひとりさくら道されている、ぼくし～さんは6時前に名古屋駅前の東横インをスタートされたとのこと。巨人軍団と同時スタートではないかと思っていたが、そうではなかったようだ。この分だと私より先に進まれていると思う。

岐阜駅前には歩行するにはややこしく、道路横断禁止のところもあった。また工事中のところは表示が不十分で紛らわしかった。コンビニでバッグをルネス金沢へ送り、コンビニ横で着替えて、スタート準備完了。当日はメーデーのパレードが丁度行われている最中だった。

ひとりさくら道スタート

JR岐阜駅前(スタート)

4月28日 11時05分

屋前とあってかなり気温も上昇し、苦しい中での走り出しとなった。空は青空も少しはあるが、概ねどんよりした天気になっていた。岐阜駅から基盤の目の中を東へ1kmほど行くと道路幅が広がったので左折して北に向かった。しかし、コースが正しいか、どうか不安になったが、スギ薬局の看板が見えたので、間違いのないことを確認できた。



金津町4を右折し、国道248号線を進む。まだ2kmしか進んでいないのに大汗で背中中のデイパックまで帽子の日差しから流れた汗でビショビショになっていた。空は灰色の雲が立ち込め、ほんの僅かだが、パラパラと水滴が落ちてきた。天気予報では美濃辺りは15時頃に小雨が降る予報も出ていたので、当たっている

ようだ。やや北向きになると向かい風が変わった。暑い時は少し向かい風の方が、暑さを凌げるので楽だ。空はさらに暗くなっていた。その先で、それまで路面に残っていた今は廃線となった「名鉄美濃線」のレールが途切れた。



新しく路面舗装されたためである。白山神社前を通過、道中の無事を祈願し、道路脇から手を合わす。この辺りは住宅地のすぐ後ろに幾つ



かの小山があり、濃淡の緑の木々が鮮やかだ。

日野南の手前まで来ると前にデイパックを背負ったランナーらしき人の姿が見え始めた。ぼくし~さんのようだ。日野南(7.5km)を過ぎて間もなく、ぼくし~さんに追いつく。少し並走し、携帯番号の交換、「ポイントで掲示板に書き込みます」と言い、先に進む。岩田に差し掛かる坂でぼくし~さんは歩かれていた。私はまだ走り出して間もないので足は軽く、先を急いだ。

ここからは真っ直ぐな直線に店が並んでいる。旧岩田駅付近からは道路が渋滞していた。渋滞すると余計に暑く感じるので辛い。時間は昼12時過ぎ、下芥見で反対側車線側に吉野家があったので、入ろうか、入らまいか迷った。渋滞の最中、やっつと横断し、一旦バックして吉野家前まで行ったが、並みでも量が多く、食べられないのではないかと悩み、結局食わずに先に進んだ。その先で道路脇に座って岐阜駅で買った小さなパンを食べる。棚橋工業前(13.0km)は散った桜の花びらがいっぱい落ちていた。北を見ると遠く奥美濃の山々の姿が映っていた。



関に入り、進む方向が東向きになるとやや強い風が変わり、暑くなってきた。「平成コブシ街道」の横に鯉のぼり



が靡いていることに気付く。今まではなかったようだが、新たに設けられたようだ。この辺りから足が重くなり、走り続けてはいるが、かなりやばい状態になってきた。まだ走り出して20kmも進んでいないのに何ということだ。左側に廃線となった名鉄美濃線とその駅が残っているが、駅のホームは寂しげに映る。道路歩道から、名鉄線左の脇道を進むとかつて関さくらエイドを開いて下さっていた東海北陸道高架が見える。小さな公園に人の姿はなかった。ひとりで走っていると辛くなった時、「誰かが突然エイドを開いて下さっていれば有り難いのになあ」などという自分勝手な気持ちになってしまう。そこにはノンサポートで、ひとりで走ろうと決めたさくら道と相反する部分があった。暑い、後々のためにできるだけ水分補給を控えてきたが、ここに来てそれが辛くなり始めた。

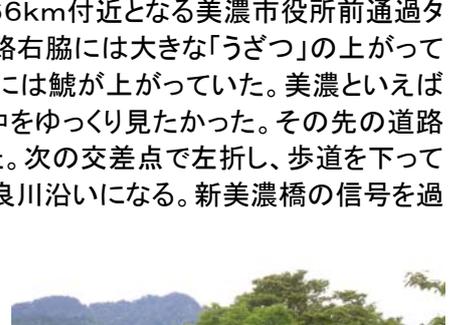
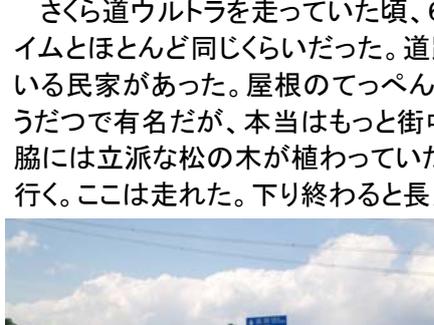
栄町4丁目(18.8km)を左折し、美濃市役所に向かう。ここから美濃市役所までは7kmあり、結構きつい区間だ。向きを変えてから、やや向かい風が変わった。ここから美濃の外れまではたくさんのコンビニがあるので、そろそろご飯も食べたい。セブンイレブンに寄ってチャーハンおにぎりミネラルウォーターを買い、店先に座り込んで休む。海苔のおにぎりは喉に通りにくくて嫌だが、チャーハンのおにぎりが出てきて、有り難い。食べ終わってしばらくすると全く身体が走ることを拒否し始めていたので、歩くことにした。この辺りから、両足のむくみを感じ始めていた。それに暑さも増し、苦しくて辛いさくら道になっていた。それにしても暑い。青空ではないので、湿度も少し高いようだ。美濃市役所までの間に去年にはなかった高架がひとつ増



えていた。また、新しいインターができたのかもしれない。新しい道路がどんどんできるとわからなくなる。この辺りの道路も渋滞していた。先に進み、今まで通りの東海北陸道高架下を潜る。ほとんど歩いている。薬局でアスパラドリンクを買くと92円と安かった。少し元気が戻るかな。トイレに行きたくなり、これはやばいと思っているとタイミング良く公民館があったので、借りることができた。

美濃市役所前(25.6km)

4月28日 15時23分



さくら道ウルトラを走っていた頃、66km付近となる美濃市役所前通過タイムとほとんど同じくらいだった。道路右脇には大きな「うぎつ」の上がっている民家があった。屋根のてっぺんには鯪が上がっていた。美濃といえばうだつで有名だが、本当はもっと街中をゆっくり見たかった。その先の道路脇には立派な松の木が植わっていた。次の交差点で左折し、歩道を下って行く。ここは走れた。下り終わると長良川沿いになる。新美濃橋の信号を過

ぎると例年は車が渋滞するが、今年は全く渋滞がなく、走っているも車も少なかった。その分、その手前で渋滞していたのか？。空は徐々に青空に変わり始めていた。気温は15時で17℃だったが、もっと高く感じた。この辺りの道端に水道があり、冷水を飲めると楽しみにしていたが、進んでも進んでもそれが見当たらない。もう建物每潰されたのかと思っているとみちくさ館手前でようやく見つけた。かなり位置の勘違いしていたようだ。この水道の水は冷たく、最高に気持ち良いのだ。

みちくさ館の裏側には旧街道のようなやや狭い道があるが、ここでも「うだつ」の上がる立派な旧家が目に付いた。美濃市街地で見ただつの上がる家とは違い、歴史の重み



を感じさせてくれる家だった。この辺りの民家ではこの時期、端午の節句の鯉のぼりや旗が上がっているが、今年はひとつも上がっていない。ポールは立っているのに、どうして上がっていないのか、不思議でならなかった。長く歩いていたので、この辺りから少し走り始めた。空は青空に変わっていた。また、東海北陸道高架を潜る。

青色の新立花橋(31.0km)を越え、歩道のない立花トンネルを進むと前方に川幅いっぱい靡く鯉のぼりの姿があった。今年は鯉のぼりの数が多い。須原橋に近づくと少し風があるので見事に靡いていた。

青色の新立花橋(31.0km)を越え、歩道のない立花トンネルを進むと前方に川幅いっぱい靡く鯉のぼりの姿があった。今年は鯉のぼりの数が多い。須原橋に近づくと少し風があるので見事に靡いていた。





赤の須原橋に多数靡く鯉のぼりは見事にマッチする。この辺りからは左側を長良川鉄道が並走する。須原トンネル、またまた東海北陸道高架を潜る。左を見ると山から水が落ちていて、一緒に流れ落ちた瓦礫の多さが気になった。放置されたままなのか？。



少し進むと道の駅「美並」(35.5

km)に到着。15時53分だった。駐車場はかなり混んでいた。いきなり食堂に向かった。かけそばと缶ビールを注文、そばは熱かったので時間を掛けながら食べた。ビールを飲めば元気になり、むくみもするかと思ったからだ。食堂のおばさんから「後ろの方は何時頃、着かれます？」と聞かれ、「後ろを15人くらい走られていると思いますが、一緒に走っていないので時間はわかりません」と応える。「まだ190kmあるので、大変ですわ」と言うと「今日は郡上で泊まれるの？」と聞かれ、「いいえ、寝ませんよ」と言うと驚かれた。別のお客さんも驚かされていた様子だった。驚きというより、異常な目で見られた方が正確かもしれない。コース上に戻ると陽光はまだ強かったが、風はやや肌寒くなっていて、今夜は相当冷えるなあと感じた。

この頃、右手には子宝の湯と書かれた「日本の真ん中温泉」の看板もあった。歩道橋に書かれている地名は昔のままで未だ美並村だ。吉田小学校が見えて来た。今年も校庭前の花壇には色とりどりのパンジーが咲き乱れていた。その隣には立派なクスノキがあったので、眺めながら休憩する。頭上を見ると温度表示があり、17時前だというのに19℃とまだまだ高い。しかし、空気は澄んで、その分風の肌寒さは増すばかり。緩い上り下りを繰り返しながら進むと左眼下には石垣と石段の見える小さな神社があった。下り以外は歩く。下田橋を越えると長良川はまた左側に変わり、その脇を長良川鉄道が通っている。長良川の水かさは少ないが、優雅に流れていた。





17時01分に郡上市美並庁舎(41.7km)前を通過。もうだいぶ陽が陰りつつあった。サークルKに寄り、ジャンボチョコモナカを買うが、大きくて冷た過ぎるので、歩きながら食べたが、食べ終わるまでかなりの時間が掛かった。間もなく、美並は日本のど真ん中なので、その象徴となる「日本まん真ん中センター」が右の高台に見えた。白い建物が青空に映えている。この辺りは緩い上りと下りが交互にある。緩い下りで眠気防止のフクロウの目玉が3基あった。まだ明るいのに、もう点灯していた。17時半でも気温は16℃ある。間もなく、昨年入ったラーメン屋がある頃だと遠くを見ていると赤の目立つ建物が見えて来た。ラーメン「みなみ」だ。店の中に入ると客はひとりだけだった。店内で手伝いをしていた年輩の女性がいきなり、私を見て「凄い汗！」と嫌な顔をして言った。ちょ



っと嫌な気分になったが、気にせずに塩を撮りたかったので塩ラーメンを注文。ラーメンは麺の具合といい、出汁といい、なかなか美味しかった。たっぷり水分も補給して店を出たのは17時50分頃だった。すると前方長良川沿いに桜並木が見えて来た。佐藤良二さんが植えられた深戸の桜並木だ。記念に写真を撮る。

深戸駅前(45.8km)は18時丁度に通過。かなり肌寒くなってきたので道端で上着を半袖から、長袖に着替える。名津佐トンネルは14℃を示していた。通常はトンネルを通らず、トンネルより長良川側の旧道を通るのがさくら道コースだが、疲れているので初めてトンネル内を進んだ。トンネルを



抜けると格子で作られた郡上市のお出迎え表示板があった。歩きながら進むと右に郡上温泉の看板が見えた。ドライブインのところではないかと思い、この時点で温泉に浸かろうと決めた。温泉に浸かれば膝から

下のむくみは解消するかもしれないと考えたからだ。徐々に陽は暮れ始めていた。ドライブインで温泉の場所を聞くと「この建物の一番奥」と言われたので行ってみるとホテル「郡上八幡」と隣接されていた。天然温泉「やすらぎの湯・宝泉」というところに入湯料は550円だった。時間がないので、水風呂とツルツルの天然温泉に交互に浸かり、約10分を出た。余りにも歩きばかりでロスタイムが大きく、何とも慌ただしい温泉入浴になってしまった。



2004年のひとりさくら道とはえらい違いだ。

外に出るともう真っ暗だった。温泉に浸かったので走り出せるかと思ったが、それは甘かった。走れないので、いつまで歩きが続くかわからないがとりあえず歩き出す。しばらく行くと丸太ん棒を彫って水受けにしている水舟が道端にあった。いつも寄ることにしている水舟だ。顔を洗い、口に含んで、ペットボトルも満杯にした。左にオートレストラン、右にはライトアップされた桜のある立派な店があった。ここを右の旧道に進むと間もなく、郡上八幡駅が見えて来た。



郡上八幡駅前(54.7km)

4月29日 19時31分



地元の方が用意して下さった座布団が並ぶ駅の待合室で一休みし、暖かい缶コーヒーを飲んでいるとW井さんが着かれた。巨人軍団の方々と一緒にスタートされたそうで、すでに2人くらい先に行かれたと話されていた。「もう全然ダメだ」と言いながら、横になられた。私は「先に行きます」と言って、その場を後にした。W井さんとは昨年のそれぞれのさくら道で痛み止めを貰ったり、体調のことを心配して貰ったりでいろいろお世話になった。かなり寒くなってきたので、ロングタイツを重ね着する。後を見ても誰も来ない。

高架下を潜るとサークルKがあった。さくら道の時はこの付近の喫茶店のママさん達を中心になって、テントを張ってエイドをして下さっていた場所だ。サークルKに寄ってヨーグルトを買う。ここから白鳥にかけては歩道のない区間が多いので、概ね歩くことになるが、今回は全く走れる状態ではなかった。膝裏から、脹ら脛にかけて重い物をぶら下げているような状態が続き、むくみは増すばかり。むくみというより、乳酸が溜まっているような感じだった。疲労物質に足が汚染されているようだ。空を見上げると月明かりで目映く、LEDライトを照らさなくても、不自由しないこともあった。冷たい風は北に向かうに従い、身体の寒さを増長させた。左側は長良川なので足を踏み外す危険があるため、右側の山手の道路脇を進むが、スピードを出して走る大型トラックがあれば、土手にへばり付いて凌いだ。

東海北陸道高架下(58.3km)を潜る。一体、何回目の東海北陸道高架下を潜ったことになるのだろうか。この高架は幅が狭かった。片側1車線のような。この高架は私にとってチェックポイントになっているが、今までは片側4車線だと思いこんでいたので、今回初めて片側2車線であることに気付いた。気温は8℃まで下がっていた。ようやく左側にも歩道が時々現れ始めた。ただただ必死で前に向かって進むだけだ。寒さはどんどん加速する。タイムリーに寄ってプリンとヨーグルトを買い、店前のベンチに座って食べる。ひとりランは夜間になればなるほど寂しさが増す。大和の市街地に入る。郡上八幡から大和までは非常に長く感じる区間だが、今回は長いと感じながらも、今までほど長くは感じなかった。



JAめぐみの大和前(64.3km)を21時15分に通過するが、横にあったバス停でひと休み。寒さを凌ぐため、先ほど脱いだ半袖シャツを長袖の上に重ね着し、手袋も出した。これで寒さは幾分凌げるだろう。この辺りのバス停は座布団が敷かれているので、座ってしまうと長居しそうだ。出発してからは黙々とただひたすら歩くのみ。大和市街地を過ぎるとまた歩道のないところが多くなる。この頃、タラさんからメールが届いた。「さくら道、刻んでおられますか」と。何とか刻んではいるが、何とも辛い刻み方だった。サークルKがあったのでミニチキンラーメンを買って食べる。食べながら、タラさんに「膝から下のむくみがひどくて走れない」と返信する。間もなく「膝の真裏のリンパのツボを押すと良い」とメールを頂いた。白鳥に入ったところの東海北陸道高架下(70.6km)を通過。この頃に2箇所目の眠気防止フクロウの目玉が3基あった。

そろそろ眠気も出て、先がますます心配で、また怖くもなってきた。休んでリンパのツボを指圧したいと思っていると、白鳥ボーリングセンターの前にコインランドリーが見えた。かなり寒くなっているのに、床で寝られるし、最高の場所だ。人が入って来ないか気にしながら、約15分横になる。同時に目を瞑りながら、膝裏を指圧する。ボーリング場は22時半過ぎだったが、GWの土曜日とあって賑わっていた。日本土鈴館を過ぎると前にオレンジ色の灯りが見えてくる。油坂峠道路の高架下だ。いつもこの一帯だけが、独特の色を放っている。気温は5℃まで下がっていた。左に曲がりながら、長良川鉄道の跨線橋を越える。いつものようにボタン桜が外灯でライトアップ



プされていた。この辺りからは外灯の下に桜の木々がたくさんある。夜は外灯の光であたかも桜が咲いているように勘違いすることが多い。桜の木に短冊があり、「太平洋と日本海を桜でつなごう」と書かれていた。

奥美濃大橋を渡った先で交差点を横断し、顕彰碑に向かう。昨年、一瞬間間違いそうになったが、今年は大丈夫だ。上を見上げると油坂峠道路のペアピンカーブやロータリーが高くそびえ、その規模の大きさ、立体感に威圧をも感じるほどだった。そこに点々と灯るオレンジ色のライトが寂しげに映った。一旦、民宿「てんご」の前に出て、民家の間を顕彰碑へ上って行く。坂道なので、両溝を流れる水の音が余計に寂しさと寒さを増長させる。喉も乾いたので、その水を飲みたかったが、これは自重した。そして、白鳥の町を一望できる丘まで来たが、暗かったので行き過ぎてしまう。一瞬戸惑ったが、何とか顕彰碑に到着できた。



桜守佐藤良二君顕彰碑(75.4km)

4月28日 23時32分

もう6回目の顕彰碑だが、未だ暗闇の中だと正確な場所がわかりにくい。昼と夜では雲泥の差がある。何はともあれ、顕彰碑に手を合わせてから、来た道を下って行く。途中までは同じところを進み、そのまま真っ直ぐに進むと最後のさくら道2年間の私設エイド地点だった「向小駄良防災センター」が左に見えた。その前の公園には2004年6月19日に出席者全員で記念植樹した2本の庄川桜の実生が育っているが、3年経って大きくなって



いたのがこの目で確認できた。真っ暗だったが、ストロボでの写真ははっきりと昼のように写っている。神明神社の前を通過し、向小駄良交差点で左折する。交差点角には2001年の私設エイド地点だった民宿「さとう」(76.7km)があった。その斜め前にローソンがあるので寄った。寒いのでコーンポタージュのカップを買い、湯を注いで横の風除けできる建物の中で飲む。寒いので、このような場所があると有り難い。この先、蛭ヶ野までコンビニはないので暖かい飲み物をどこで摂るか頭で考えた。



0時を回り、ここからは今までとは全く違う寒さに変わった。風もだいが出て、非常な寒さだ。ウインドブレーカーを着る。もうこれ以上、羽織る物は何もなくなった。どんなに寒くなってもこの格好で持ち堪えなくてはならない。緩いが、ずっと上りになる。毎度のことながら、外灯の下の桜の木々はどう見ても満開に見えて仕方ない。近づいてよく見ると緑の葉がライトに光って、ピンクのように見えているらしい。疲れなのか、たまたまそう見えるのか、よくわからない。とにかく肌を刺すような冷たい向かい風で体感では完全にマイナスの世界だ。下はロングタイツだけなので、風が肌を突き刺す感じだ。ウインドブレーカーの下を持ってこなかったことが悔やまれる。時々、走り出したが、すぐに歩きに戻った。目が瞑り始めたので、戸が閉まるバス停で

横になる。寒くても風を凌げるので全然違う。約10分余り目を瞑って休んだ。右側に道の駅「白鳥」に差し掛かると「白山長滝」という大きな看板が見える。少し進んだ頃、左に長良川鉄道終点の北濃駅(82.6km)が見えるのだが、見落として通り過ぎてしまったようだ。その先のひと際明るくライトアップされた桜の木々のところまで来た時に気付いた。

ここからは右に大きなカーブがある。左に行けば「ウイングヒルズ白鳥」だ。手前の温度計は1°Cを示していた。この頃、いろいろと考えながら歩いた。どこまで行くか、止めるならどこが良いかなど、今の状態では到底ルネスまで自分の足で行けるとは思えない。JRなら城端まで進まないといけな。白川郷まで進めば高速バスがあるのだろうか？。さくら道の場合、止



められる場所が限定されるので、その判断は大切だと思う。今まで一度もリタイヤの経験がないので、バスの交通事情も全くわからない。さくら道でリタイヤする自分の姿など考えもしなかったことだ。今それが現実になろうとしている。さくら道ウルトラは旧道を進むが、今回も近道となる国道を進んだ。

暗闇の中をさらに上って高鷲に向かう。気温はついに0℃に下がっていた。誰の助けも受けないノンサポートの辛さは夜になればなるほど強く感じる。再び、バス停があったので横になった。このバス停はすきま風が入って来て、やや寒かったが、同じように約10分余り目を瞑って休んだ。高鷲商工会館前(87.0km)では自販機で暖かい飲み物を飲む。2時15分になっていた。疲れは増し、どんどん気力は失われていく。今、横になっていたばかりなのに、また休みたくなった。

標高580m、知らず知らずのうちにここまで上っていた。本当にたくさん歩いて来た実感する。さくら道ウルトラの頃、旧道を進まずに国道を進むと1km短くなるが、いつも旧道を進んでいたのショートカットしている人を見ると腹立たしかった。しかし、勝手に走っているとはいえ、今ショートカットしている自分の姿がオーバーラップする。複雑な心境だ。猪洞橋までも結構急な上りが続き、旧道と合流、その先もぐねぐねと曲がった急な上りは続いた。真夜中にひとりで歩いていると過去、私設エイドがあった場所を通り過ぎる度に暖かい飲み物を頂いていたなあと思出す。やや急な上りは終わり、旧道とバイパスの分かれ目があった。そのまま道なりにバイパスへ進む。また眠たくなってきた。タイミング良く目の前にバス停が現れたので、また横になってひと休みした。白鳥から4回目になる。過去、二晩目にしてもこれだけ目を瞑って横になることはなかっただけに、今回は疲労度が高いと実感する。疲れとは裏腹に空を眺めると無数の星が輝いていた。こんなに星を見たのはいつ以来だろうか。大村湾で見た比ではなかった。空は澄み切っていて、天の川もはっきり見える。空に吸い込まれるような気分になった。

もう少し進むと急カーブのところに「ダイナランド」入口(92.5km)があった。この辺りではダイナランドが一番スキー客は多いのだろう。ここには自販機があるので、眠気防止に缶コーヒーを買う。この先、上りが続き、少し行くと急なヘアピンカーブに差し掛かった。上を眺めるとかなり急に思えるが、歩いているとそれほどきつくはない。今年もスピードを出した車が3台ほど上って行った。ロッジが右にあり、もうしばらく進むと道の駅「大日岳」があった。数台の車が駐車しており、車横で TENT を張って、寝ている人もいようだ。その先で左に行けば高鷲スノーパークだ。この先は長い下りが「駒ヶ滝」まで続き、その後は急な上りに変わる。空はやや青みを帯びて、朝が近づいて来たことを物語っていた。ここでも気温は0℃を表示していた。坂を上り切ると建物が見え、蛭ヶ野高原だ。今回は坂が短く感じた。



ひるがの分水嶺(97.3km)

4月29日 4時20分

まず、道端の「分水嶺公園」に寄り、太平洋、日本海と刻まれた「石碑」を確認する。分水嶺は暗くてよく見えなかった。昨年はこの辺りは凄い雪だったことを思い出す。ここ「湿原植物園」は有名だ。標高870mある蛭ヶ野高原だが、ここは家の数も多く、高原でありながら、スキー場と住宅地が混在するアンバランスなところだといつも思う。逆にいえば、このアンバランスさが避暑地特有のものかもしれない。民家の向こう側には雪を被った山が覗いていた。右には「蛭ヶ野高原スキー場」があった。ただひたすら歩いていると車が急に止まり、窓越しに「何人くらい走っているんかね。後ろの連中はバラバラで今、坂を上ってたよ」と話し掛けられた。「一緒に走っていないんで、後ろのことはわからないです」と応える。



少し下りに入った頃にタイムリーがあるので寄ることにした。4時40分だった。手袋をはめた状態でも指先は震えるほど寒くなっていた。暖かいラーメンを食べたかったので塩出汁の中華そばを買って食べようとするが、寒さを凌ぎながら食べられる場所がない。結局、コンビニの納品用樹脂ケースに座って、冷えを凌いだ。暖かい物に久し振りに有り付けた喜びがあった。先ほど声を掛けてくれた方も休憩されていた。「朝食？」と聞かれ、「寝てないから、1日6食くらい食べるので何食でしょうね？」と応対する。峠なので風が強く、体感温度は相当な低さだと思う。徐々に下って行くと郡上市から高山市に変わった。朝5時4分、気温は





マイナス3°Cだった。寒い寒いとは思っていたが、この時期としては厳寒といつてよい。下りになってからは谷間なので冷たい風が吹き込んで震えるほどの寒さ。

下りになってもずっと歩き続けた。昨年はこの辺りの林は一面雪化粧だったことを思い出す。今年とはえらい違いだ。早朝とあって、車の数は少ない。かなり明るくなり、澄み切った空気の旨さを感じつつ、牧戸までの独特の風景をしっかりと目に焼き付けながら、進む。源流で水は少ないが、澄んだ庄川の水の音色を聞き、一方ではうす茶色で葉の全くない山の稜線は1本1本の枝まで見える。まさにここは真冬だ。途中にある小さな集落は



田舎独特の落ち着きを感じさせてくれた。ずっと下って行くと「庄川であいの森」「レストランであい」があり、ここまで来ると牧戸が近い。下り切ると「飛驒INFO荘川」という休憩所がある。牧戸バス停(106.8km)には6時20分に着いた。始発のバス時刻を見るが、まだ2時間もある。



寒くても牧戸の新鮮で澄んだ空気は気持ち良い。空は真っ青だ。天気が良いので、今年車の量はかなり多いように思う。見渡すと辺りの田畑は霜柱が立っているほど、真っ白になっていた。車に注意しながら進むと岩瀬橋が見えて来た。下った後に車2台がやっと通れる岩瀬橋を渡る。車がすれ違う度に脇で立ち止まり、写真を撮りながら、庄川櫻を目指す。御母衣ダム湖の貯水量は去年の半分くらいで、遺跡を掘っているような感じに思えた。そして、2台の車がすれ違うのでさえ困難な3つの岩瀬トンネルをようやく通り過ぎる。ここは車が来れば、止まらざるを得ない場所だ。朝日を浴びた御母衣ダム湖は今までとは違った神秘さを感じた。





ドライブイン「みぼろ湖」が見え、その反対側には鮮やかなログハウス群が並んでいた。白樺林の中にログハウス、何とも贅沢な景色だ。ドライブインではホットレモンを買い、身体を暖める。この白樺林は今まで感じなかったさくら道の新たな癒しの場所になったように思われる。御母衣ダム湖に沈んだ中野集落の「水没記念碑」、「万家寂静水没之碑」を越えると真正面に薄く雪を被った白山が見えて来た。まさに絶景だった。さくら道6回目にして最高のロケーションだ。さらに左にカーブし、2つの橋を越えると目の前に雄大な荘川桜が見えた。



荘川桜(112.5km)

4月29日 7時18分

今年の荘川桜は澄み切った青空の中に見事に映えていた。しかし、一部2分咲きのところもあったが、ほとんどは色付いたつぼみだった。行く前に荘川桜のHPで咲き具合を見ると例年に比べてつぼみの数かなり少なく思っていたが、実際も少なかった。うそ鳥に食べられたのだろうと思う。2001年と同じような感じだった。早朝ながら、車を止めて、桜の古木を見上げられている人の姿もあった。荘川桜の価値は枝を切り落され、前代未聞の大移植の中で生き延び、御母衣ダム湖に沈んだ中野集落を、そこに住んでいた人々の守り神になっていること。そして、霊峰白山がその荘川桜を守っているのだと感じた。

2本の古木は手前が照蓮寺櫻、



奥が光輪寺櫻だと初めて知った。私は手前が光輪寺櫻だとばかり思っていたが、実は逆だった。さらにその北側にある2本の木は莊川櫻の実生だったと初めて知った。知れば知るほどその奥の深さを知ることができる。日差しは強いが、気温は2℃を示していて、まだまだ肌寒い。すぐ先にボタン色の屋根の「御母衣電発神社」が石段の上にあった。御母衣ダムの安全祈願のための神社ではないかと思う？。ずっと歩きながら、どこを終点とするか考える。平瀬温泉か、白川郷か、バスのタイミングを見計らうこととしよう。去年は山の斜面は雪で被われていて、真冬状態だったが、今年は気温が低くても春だ。豪雪地帯というのはこんなにも年によって違うものか。この辺りでも白山が鮮やかだった。



尾神橋は例年に比べて車が多く、渡るのにひと苦労だった。バイクの集団も多い。御母衣ダム湖の湖面は実際のところは定かではないが、例年より、6、7m、あるいは10mほど下がっているように思われる。気温は4℃で風も肌寒いですが、日差しがあるので、半袖にランパンと薄着になる。私にとっては気持ち良いくらいの格好だ。道路脇には「文化街道」と刻まれた大きな石碑があり、その横には花を咲かせた1本の桜の木があった。案内には平瀬温



泉まで8km、白川郷の荻町合掌集落まで20kmとあった。1km以上ある福島保木トンネルに入る。雪が少なかったせいか、歩道は上から水が全く落ちていなかったが、その分ホコリはひどかった。今までは1km以上あるトンネルでは走った方が楽と思って走ったが、今年は走れず、トンネル内を歩くのは辛い。トンネル内の照明のランプが切れているところが多くあり、足元が見えないことが度々あった。こんなことは初めてだ。

次の福島第2トンネル手前からダム湖側を歩く。福島第3トンネルでは大型車が通行する場合、すれ違いが困難なので、交通誘導の人が立っていた。6回目のさくら道でこんなことは初めてだ。何故、今年は車が多いのか？。日差しが強くなってきた。ここには「御母衣ダム」と刻まれた石碑があり、ダム下側にある御母衣電力館や平瀬集落を眺めると壮大なパノラマだ。上から、この先下って行くS字の急坂がはっきりと見える。ダムは貯水量が減って



いるので、水で隠れていたロックフィルダムの細かい岩や土がむき出しになっていて、複雑な心境だった。この横から福島第3トンネルに入る。この時、ちょうど目の前に一宮のI田さんが現れたので、会釈する。突然のことでびっくりした。どこをスタートかわからないが、さくら道を逆走されているようだ。会話はなく、すれ違っただけで終わった。



御母衣ダム(120.6km)

4月29日 9時10分

福島第3トンネルは路肩が狭く、荒れているので、最も危険なトンネルだ。車はかなり多く、前に進むにも気を遣った。ここは歩く方が危険と思い、走ることにした。トンネルを出ると11℃まで気温は一気に上がり、暑くなり始めていた。空は一面、真っ青だ。下り坂は走れるかと思っただが、やっぱり無理だった。下る最中に電発の「御母衣電力館」に寄って、莊川櫻の大移植の様子を見ようか迷ったが、寄らずに進んだ。このことは後に後悔となった。毎度のことながら、御母衣ダムを下から見上げる。やはり壮大だ。青空に茶色のロックフィル式ダム、V字型に包み込むように迫っている山々、ここはさくら道にシンボルのひとつだと思う。

平瀬に入るといつも気持ちが落ち着く。この里山の雰囲気大好きだ。やや散り加減の桜の木々が並んでいる。しかし、身体は日射しが強く、疲れはピークに達していた。この時、心の中はすでに平瀬温泉で止める決意ができていたのでバス停で時間の確認をする。バスは1日に4本くらいしかないが、丁度タイミング良く10時10分頃に白川郷行きがあった。現在時間は9時30分頃だったので、平瀬温泉なら、10時20分頃となり、3.5kmくらいなの



で、足湯に入って、バスに乗れるくらいだ。この時点であと4kmも行けば歩かなくても良い。さくら道を止める悔しさより、終われる安堵感が嬉しくてたまらなかった。それは大会でなく、道楽で身勝手に走っているのだから、自分自身のさくら道は満喫できたと思ったからだ。足湯が待ち遠しい。

上を見上げると更に白山が迫り、その横をヘリコプターが飛んでいた。今年の白山は素晴らしいコントラストを描いていた。外れにはある国指定重要文化財「旧遠山家」がある。その手前にも合掌造りのお食事処があった。やや遠目から眺めると合掌造りと雪化粧した白山は素晴らしくマッチしていると思う。旧遠山家は中が一般公開されているらしく、門口が開いていた。優雅だ。少し眺めた後、少し坂を上ると平瀬温泉の入口が見えてきた。その左に



白山登山口がある。こんな看板が立っていた。“立山や乗鞍のように人間公害を許すな。白山に人間公害はいらない”、このような内容だったと思う。立山登山マラニックにはここ3年参加しているので、この言葉に胸が痛む。ここでY字路があり、右の旧道に入っていく。

「大白川の湯・平瀬温泉」と刻ま



れた大きな表示が目飛び込む。新しくバイパスができてから、建てられたものだと記憶している。平瀬温泉はひなびた良さを感じさせてくれる温泉だ。ここでようやく美濃付近では見掛けなかった丹後の節句に旗が平瀬まで来て、ようやく見ることができた。平瀬T字路(126.1km)を過ぎると桜が満開だった。わずかに場所を移動するだけで、これだけ桜の花の状態は違うのだと感じる。庄川沿いにもわずかだが桜並木があり、青空にピンクの花が映えていた。地元の方に平瀬温泉バス停を聞くと「少し先」と教えて貰う。去年は「くろゆり荘」の足湯に浸かったが、今年は「ふじや旅館」の足湯に浸からせて貰った。靴下を脱いで浸かるとやや熱めだったが、次第に足になじんできた。硫黄泉らしく、硫黄の臭いが漂っていた。飲めるので1杯口にするとやはり濃い感じた。バスの時刻まで余りないので、10分程度浸かって、バス停に向かう。この辺りに「しらみずの湯」という公共施設もあるようだ。すると白川郷とは反対方面からバスがこちらを向いてやって来た。白川郷へ向かおうと思っていたのに何を思ったのか、バスの運転手に聞いて高山行きのバスに乗ってしまった。未だ疲れていたのに乗ったのか、ただ早くバスに乗って楽になりたかったのかわからない。何れにしても、この時点で私の2007年さくら道ひとり旅は4月29日10時10分に終結した。



さくら道番外編 高山観光

バスは牧戸までを今来た道を逆走行し、道の駅「桜の郷庄川」のバス停で止まった後、庄川インターから東海北陸道に入り、JR高山駅に向かうコースだった。料金は2000円。ぼくし~さんの掲示板に平瀬で止めたとき書き込みを流すとその後、ぼくし~さんも白川郷で止めたとき書き込みがあった。平瀬、御母衣ダム、庄川桜、御母衣ダム湖を見ながら、過去6回もここを通過、金沢を目指したのだと振り返る、自分の足でコース上に居る時より、こうやってバスの窓越しに見る風景は立体感があって遙かに壮大で、距離は長く感じた。そして、S字カーブが連続でバスから見るとかなり危険な道に思える。車の数はかなり増え、岩瀬橋前後で北へ向かうランナーの姿を3人ほど発見できた。大会なら走れている人が羨ましく、そして、止めた自分自身に対する悔しさもあるだろうが、今はそれが無い不思議な気持ちだ。反対側から見る庄川桜はまた違う感じさを受けた。岩瀬トンネル付近は道路幅が狭いので、車はすれ違いに苦労していた。

高山までは1時間半くらいで行けたが、途中真正面に穂高だろうか、乗鞍だろうか、3000m級の山々被う雪の冠があまりにも鮮やかで窓越しとはいえ、見とれてしまった。真っ青な青空の中に目の前に見えるこんな素晴らしい風景は過去、見たことがないくらいだった。高速を降りて、高山市内に入ると渋滞していた。GW、高山は観光客

が多いのだろう。高山駅には11時40分頃に着けた。



まず、金沢行き的高速バスの時間と料金を見ると金沢まで3時間で3300円、この高速バスは道の駅「桜の郷荘川」、平瀬温泉、白川郷のみ停車し、金沢に向かうのでかなり遠回りになるようで、その分料金が高いのだろう。

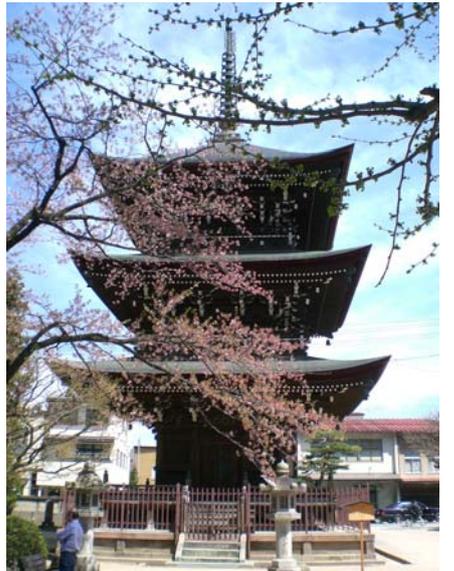
JRで金沢までの時間を聞くと、途中で陸橋が3ヶ所欠損し、バスによる代行運転もあるので、3~4回の乗り換えを含め、4時間掛かるとのこと。料金は安くて2600円。乗り換えは辛いし、この格好で駅での時間待ちは寒い。結局、高速バスで金沢に向かうことにした。金沢行きは15時20分だったので、約3時間半の自由時間がある。しかし、衣類は汗をかいたままのランニングウェアでうろうろするのは気が引けるが、乾いているので臭いは



なさそうだ。1日以上ご飯らしいものは食べていないので、何か食べたい。

高山は飛騨牛と高山ラーメンの店がやたら多かった。ほとんど麺類ばかりの食事だったので、飛騨牛を食べたくなかった。あちこち店を回りながら、店頭でメニューを見たが、一番安くても1500円くらいだ。結局Tと

いう店に入った。飛騨牛焼肉丼と生ビールを注文する。ご飯を腹一杯食べたかったのに、ご飯は小ライス並みで、肉は歯で噛み切れなかった。「これはひどい！吉野家の牛丼の方がはるかに美味しい」と心で思いながら食べた。飛騨牛という看板を出しながらも、まさに観光客相手の一元さん商売だと感じた。



その後、駅前で貰ったマップを片手に「飛騨国分寺」に行く。境内はこ

じんまりしていたが、ここの境内にある大イチョウは樹齢1200年という見事な古木だった。ここには重厚な三重の塔もあった。高山は飛騨の小京都と呼ばれる碁盤の目の街だが、非常に細かい碁盤に思えた。宮川を渡り、古い街並を見に行くとGWとあって観光客でごった返していた。古い町並はいろいろな店が並んでいたが、ここだけが





人工的に観光のために造られた通りという印象を強く受けた。赤の欄干の橋を渡ると有名な「朝市会場」だった。午後とあって、朝市は終わり、様子はよくわからなかった。街中をうろうろしていると、すでに半月前に終わった春の高山祭の屋台が後片付けされていた。高山祭は日本3大美祭りといわれるほど、屋台の華やかな祭りのようだ。通りを歩いていると「馬頭組」とハッピーに書かれた石像が目抜き通りのあちこちに建っていた。これは何を意味するのだろうか？。美味しそうだったので1本300円の「飛騨牛串焼き」を食べる。注文してから焼かれるので待ち時間があるが、焼肉丼よりずっと美味しかった。

バスの発車時間が来たので高山駅に戻り、15時20分発の金沢駅のバスに乗る。来た道を逆走し、三度、御母衣ダム湖、庄川桜などを眺めながら、白川郷に向かった。高山への行きと違って、車の数はだいぶ減っていた。白川郷バス停では同じくひとりで走られていたぼくし〜さんと巨人軍団の仲間と走られていた方3名がバスに乗り込まれたので、みんなで昨夜の寒さのことが話題になった。その内のひとりの方は昨年走られていた千葉のT田さんだった。昨年同様に白川郷で止められてようだ。私はT田さんの名前を思い出せなかったが、T田さんは私の名前を覚えていて下さった。停車時間があつたので、缶ビールとつまみを買って、喉を潤した。



バスは道の駅「白川郷」手前から東海北陸道に入った。トンネルが多いので、さくら道のコースは時々見られる程度だったが、菅沼合掌集落付近がはっきりと見えると残念な気持ちが沸いてきた。波多パパ&ママの福光までは行きたかったという後悔の念だろうか。五箇山まではずっとトンネルで、城端に入るとトンネルはなくなった。車中では外を眺めながら、ウトウト眠りの繰り返しだった。そうこうしているうちに金沢市内に入り、金沢駅には18時30分に到着。GWとあって予定より10分ほど遅れた模様だ。ここで金沢の実家に戻られるぼくし〜さんと別れる。ルネス行きのバスは発車したばかりだったので、Tさんとお連れの女性と3人でルネス金沢にはタクシーで向かった。19時に到着。

ルネス金沢にて

ルネスでは先ず温泉に浸かり、汗や疲れを落とす。交互に入ると水風呂が気持ち良い。風呂を出て、少し横になるだけでウトウトとしてしまう。Tさんと女性と3人でお疲れ様夕食をする。足を伸ばして食事したかったが、Tさんは腰が痛いと言われたのでテーブルのレストランに行った。お2人のことは何も知らないし、お互いに疲れていたのでも早めに切り上げた。ほとんど初対面なので、共通の話題がない話は弾まないのは仕方ないことだ。その後、ひとりでゴロゴロとウトウトしながら時間を潰しているうちにビールが飲みたくなったので、夜中0時前のオーダーストップ直前に生ビールとつまみで空腹を癒す。ルネスには売店がなく、何も買うことができないのが不便だ。

その後はソファに横になって朝6時頃まで浅いと思われるが、寝ることができた。玄関に行くと昨年走られていたN田さんとY崎さんが到着されていた。「お疲れ様」と声を掛けるが、おふたりは私のことを覚えていないみたいだった。

7時過ぎからはバイキングで思いっきり朝食を摂った。しかし、以前と比べるとメニューがだいぶ減ったように思えた。その後は新聞を読んだり、テレビを見たりして時を過ごす。廊下でH野さんとぼったり逢う。白川郷までバスでワープしたと話されていた。牧戸からか、庄川桜からかはわからないが、いろいろな形のさくら道があって良い。来年のさくら道ウルトラがあるのかどうかについて「海宝さんの気持ちも揺れ動いているようなので何とも言えないが、行いたいようなニュアンスが本人からあった」と話されていた。

10時20分にルネス出発のシャトルバスがあるので、それに乗って金沢駅に向かう。金沢駅では11時過ぎのサンダーバードに乗り、2泊3日のさくら道から帰ることにした。15時頃に家に着いたが、距離が短かったので、疲れもなくGWの後半に入ることができた。

さくら道を終えて

こうして2007年、私のさくら道の旅は終わった。終わってみれば、走ったというより、まさに旅をしたという感じだ。平瀬温泉までしか行けなかったけれど、それはそれで満足している。どんな形であろうとさくら道はマラソンコースでなく、ひとりの国鉄バスの車掌さんが太平洋と日本海を桜のトンネルで結び、みんなが幸せに暮らせますようにとの願いを込めて桜を植え続けた道だから、ここを自分の足で踏みしめることは勇気と幸せを貰えるような気がする。それにしても良い天気だった。桜の町・白鳥、蛭ヶ野は冷えたが、天の川まではっきり見えた素晴らしい夜空、暖かく迎えてくれる荘川桜、壮大な御母衣ダム、白山の麓・平瀬温泉、オプションの高山散策、2007年も新しい思い出作りができた。GWにさくら道に居ること自体が幸せに思う。

さて来年2008年、さくら道の復活の噂も風の便りに聞く。本当のところ、海宝さんは「やろう」と言われるのだろうか。やって欲しい気持ちがあるが、いろいろな形でのさくら道もある。郷さんからのメールにもあったが、GWにさくら道に居ることの意義の大きさをを感じる。それは人生への問い掛けではないかと思っている。だから、私にとってのさくら道はお参りに思えてならない。もし、来年さくら道ウルトラマラソンの復活があれば、当然走りたいし、さくら道を愛する人々との交流もしたいと思っている。